

軍中の輩を召し上り木柵を反りて各自退り今日此合
戦累年の爲らるるを救ぜりなり殊に小比寺の大勢を
小勢めりて退り景通の眼前より究竟の者共を討
取事各粉骨を尽す故より此戸は益々助成り河
内細田勝九郎入江九郎左門梅田仁兵衛田口喜藏
丸山善太市代伊妙觀八人共道盛公所馬の前ふ
て比類るる振舞眼を驚す劔より今日合戦はか
なく退り事不思議なり各陳を退り休息はされ
よと各感状し及がらふふ上肥の城主赤平屋書小野
寺に陳し有て道盛公は通し偽りて病を称し上肥に

歸り新所を立ちふ及る火を放り駈舎を焼立ちられ
煙りを見り阿隅川の勢大に驚き駈ぐは夜刈りて
兵を率い本日京子於て勝負を改せんや打出て夜
に内小比寺勢人数を引曰た三日阿隅川に歸る形て
享禄二年戸は道盛公千余騎を率い下杉の田に出
張淀川の土家を放火せよと爲野小山田寺に三百
余人分ちをす処淀川に者共稻富東の臺に折れて半
時むかり戦ひあり既にお味方危く見たりとふ道盛公ハ
七百余騎下りねより難件歎の叱に攻めたりと下
淀川に退去るをみし余騎追討ありて下りねに歸れ